

蒼生

そう せい

2015年
4月号

「老いる」ということ

名誉院長
飯島崇史

今年の正月は好天に恵まれた。近くの神社も初詣の人でにぎわって、拝殿の前には長い行列ができていたが、その横、おみくじ売り場との間に大きな立て看板があったのでふと目をやると、今年厄年（数えて男は二五、四二、六一歳、女は一九、三三、三七歳）にあたる人の生まれ年が書いてあり、お祓いを受け付けますとのこと。そういえば二十年近く前のことだが、知り合いの祈祷師もどきの人から「今年、先生は本厄だから、お祓いをしておいてあげたよ」と言われ、立派なお札をいただいたことがあった。でも、まあ、もう俺はすでに六一をとつくに過ぎていたので、厄年からは解放されているということになるのかな。いやそうではあるまい。最近わが身におきる不具合の頻度からす

ると、むしろ逆にもう毎年が禍に出会う可能性にあふれているので、特定の年齢を厄年と定める必要などなくなると考えるべきなのかも知れぬ。あれこれ思いをめぐらせるうちに、改めてわが身の「老い」を考えさせられた。

「老」は「幼」とならび、自分の力だけではみずから世話できない状態とも言える。人は介護されつつ生まれ育ち、そして再び介護されつつ死にゆく。誰もがそれぞれにそれぞれの「老い」を迎えるわけで、生きるということは日々老いるということでもある。あり、「老い」はことさらあげつらうような特別なこととは思われない。ただそこに介護と言う課題があるので世の耳目を集めるのであろう。では人はどんなときに「老い」を意識するのだろうか。

「疲れやすくなった。文字が見えにくい。忘れっぽくなった。容姿が年寄りくさくなつた等々。」と老いた人はよく言う。中でも困るのは体が硬く、頭も心も固くなってしまふことである。体が硬いと足腰が痛みズボンや靴下を履こうとすると、片足立ちができずふらついてしまう。そこでやむなくストレッチに励み、毎朝のテレビ体操にすがる。

先日、忘年会の席で体操が話題になったとき、恩師の名誉教授がいみじくものたもうた。「数年前から俺も毎朝6時25分のテレビ体操やっているよ」と。皆思うことは一緒なのである。でも知った人にとっては心強い。また頭が固くなると物忘れや思い込みがひどくなる。六十歳くらいでは笑い話や単なる話題くらいですむが、思い込みが高じて頑固になると対人関係などに重大な障害を引き起こす。とはいえ人は二十歳から

毎日十萬個近い脳細胞の破壊が始まり、六十歳ではすでに十五億個が消滅している勘定になるので、ある程度はやむを得ない。一方、心が固くなると感動や感激がなくなり、やたら愚痴っぽくなる。何かに打ち込むことがなくなるのである。最近家人から「涙もろくなつたね」としばしば指摘されるようになった。「年をとって涙腺が緩んだのではなく、努めて心を柔らかく保つよう努力しているのだ」と言ってやりたいところだが、どうやら涙腺にも問題がありそうだ。容姿はどうか。若かりし頃、老け顔だと散々言われた。しかし近年同窓会などの記念写真を見ると、大半は白髪、禿頭で吾輩は最も若々しい。しかしこれにも盲点があることに気がついた。確かに正面から見ると黒々とした頭髪に見えるが、合わ



あるのではな
いだろうか。
たとえば加齢
臭を隠すため
にお洒落な香

せ鏡という手法を用いてみる
と、頭頂部などを中心にな
り薄くなっていることに気づ
かされる。数年前、読売新聞
の名コラムニスト竹内政明氏
を講演にお招きした際、彼が
年下ということもあって、学
生運動の時代を生きただ人では
ないが不遜にも「ガス弾を
浴びし黒髪 いまはもう 涼
しき銀河と なりて梳かれぬ」
と評したことを深く恥じ入る。
先般、幽明境を異にした小
説家渡辺淳一氏は「若い」と
いうものを後退的にとらえず、
もっと勝手気ままに楽しむべ
きだと説いた。世間体にこだ
わらずお洒落で素敵な不良に
なれと勧めている。確かに一
理あるが、すべての高齢者に
勧めるには無理があるように
思う。それぞれに適、不適が

水を使う人もあるが、かえつ
てその強い匂いがまわりの不
評を招くということもあるし、
本人の美意識が世間のそれと
ずれている場合も考えられる
のだから。
他方、同級生をはじめ高齢
者の出席する会合に出てみる
と、近況報告として体調の不
具合や、病状報告を述べる人
があまりにも多いことに面食
らうことが多い。同じ高齢者
でも自分はすでに老いたと感
じる人もいれば、まだ若いと
感じる人もいる。恐らく心身
の健康状態と結びついている
のだろうが、それは気の持ち
ようでも変わってくる。人の
評価など気にすることなく自
然に老いてゆけばいいのでは
ないだろうか。昨年流行った
「アナと雪の女王」は「とまど
い傷つき 誰にも打ち明けず
に 悩んでた それももうや
めよう ありのままの姿見せ
るのよ ありのままの自分に
なるの・・・」と歌っている。

弁護士に事件を依頼したと
きに、弁護士と依頼者との間
でもトラブルが発生してしま
うことがあります。弁護士と
依頼者、それぞれの問題点を
2回に分けて、どういう点に
気をつければよいのかを見て
いきましょう。今回は
弁護士側の問題です。
①事件放置する弁護士
弁護士の懲戒事例で
多いのがこれです。正
当な理由なく受任から
数か月、ときには数年
間ほとんど何もしない
というものです。弁護
士の処理能力が低下し
たり、事件数が多過ぎ
たりして事件管理がで
きなくなっていると、事件放
置は起きやすくなります。
半年〜1年経っても進展が
ない場合、今の弁護士を解任
して次の弁護士を探した方が
よいでしょう。
②話を聞かない弁護士
依頼者の話を聞かない、相

～プロムナード～

弁護士と依頼者

土道法律事務所 弁護士 飯島 充士

手方の話を聞かない、裁判所
の言うことを聞かない弁護士
です。5、60代くらいのベテ
ラン弁護士に特に多い印象で
す。特徴としては、態度が鷹
揚、「自分に全て任せてお
け！」と見栄を切る、事務所
内の最年長、といった
ものが挙げられます。
自信ありげで頼もしく
見えることもあり
が、事案の詳細を把握
していなかったり、依
頼者に断りなく手続を
進めたり、勝手に和解
を締結したりしてトラ
ブルとなります。
法律相談の際に横柄
な態度を感じたら、依
頼は一旦保留して別の事務所
も回ってみるべきです。
③横領する弁護士
犯罪行為であり論外です。
横領の対象となるのは遺産、
成年後見の管理財産、債務整
理の弁済原資、債務者から回
収した金員等の預り金です。

よくあるのは、依頼の減って
きた高齢の弁護士が事務所経
費や生活費を捻出するために
預り金に手を出して、自転車
操業を続けて破綻するパター
ンです。
見分けるポイントは、事務
員の表情が暗い、事務所の空
気がどんよりしている、言い
訳が多い、依頼者に借金を申
し込む（禁止行為です）等
です。
いずれも予兆はあるので、
違和感を覚えたら弁護士の変
更を検討すべきでしょう。味
方のはずの弁護士に損害を与
えられてはたまりませんか
ら、弁護士の対応をよく観察
して危険回避することが重要
です。
次回は依頼者側の問題を挙
げて、適正な事件処理のため
に依頼者
が注意す
べき点を
見ていき
ます。





持ち回り読書コラム「第六回」

クワーク 神原 里沙



私にとって読書とは？

ズバリ、ストレス発散！！

日常生活の中で感じる苛立ちも本を読むことで忘れることが出来ます。その上、新たな知識を得たり、今まで自分では気付かなかった視点で物事を捉えるきっかけを掴んだりなど、精神的な充実感も得ることが出来、なんてお得！

だというのに、仕事を始めてからというもの残念なことに読書の時間がめっきり減ってしまいました。そのため、コラムの依頼を受けたはいいの、何を書けばいいか随分迷ってしまいました。

さてそんな折、タイミングの良いことに読書について話をする機会がありました。本を貸してもらったはいいが、読むのが苦手で感想を求められて困るといふもの。そんな話を耳にしてしまい、「なんて

勿体ないんだ」と思うと同時に、苦手な人でも読みやすい本がある事を思い出しました。

それは星新一さんのショートショート（掌編小説）作品。ショートショートとは読んで字のごとく、とても短い小説のことですが、彼は質の高い多くの作品を残したことから「ショートショートの神様」と呼ばれています。

余談ですが、彼は本名を星親一といい、この名前は父親のモットーである「親切第一」から付けられたそうです。

さて話を元に戻しますが、これらの作品は既に「入門書」としてとても有名です。そのためご存知の方も多くいらっ

しいやと思います。逆に言えば普段本を読まない人は知らない可能性が高い、ということはこのコラムを通じて本を読むひとつのきっかけにな

ればと思いきや紹介させていただきます。

先ほども述べたとおりショートショートはとにかく文章が短い。ページ数で言えば文庫本で平均8ページ前後、少ない物は2ページのものもあります。

しかし、その限られた文字数のなかで不思議と物語に引き込まれてしまいます。それはなぜなのか？

このショートショートは、細やかな設定や具体的な描写が徹底的に排除され、必要最低限の大筋しか書かれていません。登場人物に感情移入する間もなく額面通りに読み進め、内容を咀嚼し終わった途端に、あつと言わせる展開が待ち受けているのです。この衝撃がたった数ページの中で織り成されているため、自然と文字を追ってしまいます。

また、分らない言葉がほとんどないことも要因の一つにあげられます。難しい漢字や

特定の分野で使われるような特殊な名詞は使われていないため、単語の意味を辞書で調べたり、注釈を見たりしながら読み進める必要がないのです。

ひとつの短編を読むのに15分程しか要さないのも、内容を忘れたり続きが気にならないのが嫌で手が付けられないなどということもなく、休憩時間や少しの空き時間に読むことが出来ます。

このショートショートなら普段本を読みなれていない人も、ちよつとした息抜きとして読むことが出来ます。文字を追う事に慣れてしまえば長編小説も抵抗なく読める！はず。

ちなみに、私のお勧めは新潮社刊『ポッコちゃん』に収録されている「おーい」で「こーい」や『妄想銀行』に収録されている「大黒さま」です。

色々書かせていただきましたが、小難しく考える必要はないので気軽な気持ちで一度この星新一さんの作品を手にとってみてください。

新入職員紹介

(平成27年1月以降に入社)

- | | |
|---------------|-----------|
| 看 護 師 | 腰 山 友 里 恵 |
| 看 護 師 | 沢 田 瑛 代 |
| 看 護 師 | 津 曲 悦 美 |
| 看 護 師 | 八 木 泰 子 |
| 放 射 線 技 師 | 平 田 貴 己 |
| 看 護 補 助 | 河 本 智 子 |
| 医 療 事 務 | 山 上 華 奈 |
| 医 療 事 務 | 山 中 里 沙 |
| 事 務 | 長 岡 彰 |
| 介 護 受 援 専 門 員 | 村 上 愛 子 |
| 介 護 受 援 専 門 員 | 佐 藤 歩 美 |





老年看護学実習

医師会看護専門学校の

実習生を迎えるにあたり

介護療養病棟師長 惣木

例年通り（1月13日より2

月19日までの期間）当院療養

病棟において医師会看護専門

学校の実習生を迎えました。

実習生を迎えるにあたり、学

生さんにとって実になる実習

になるようにスタッフ全員で

協力させていただきました。

そして、私たち自身も初心に

返ることができ、改めて看護・

介護とは何なのか振り返る機

会を頂いたように思います。

看護専門学校先生と、実

習生の中のお一人の方のご感



想を頂きましたので、紹介さ
せていただきます。

老年看護学実習を振り返って

福山市医師会看護専門学校

専任教員 内田善之

今回、楠本病院北病棟で老

年看護学実習を担当すること

になり、初めての実習場所

もあり、学生同様に緊張感の

高まった状態で臨みました。

しかし初日のオリエンテー

ションで病院の基本理念であ

る「闇夜の灯台」の説明を受け、

本来の医療のあるべき姿では

と深く感銘を受け、この病院

であればという思いの中で病

棟実習が始まりました。

実習開始後、援助の際に職

員の方々、患者様と接してい

く中で学生の表情が生き生き

となり、積極的に実習に取り

組むようになりました。その

要因は、指導者の方はもちろん

、職員の皆さま全員が学生

に対して丁寧な対応をしてく
ださったこと、看護師がモデ

ルとなり患者様との関わりを

示し、学生の持てる力を引き

出して下さったことだと思ひ

ます。

今回楠本病院での実習を振

り返り、「学生が成長する」と

いう看護教育について考える

機会を得たこと、何よりも学

生を受け入れてくださった患

者様、家族の方々に深く感謝

いたします。ありがとうございます

이었습니다。

老年看護学実習Ⅰを終えて

福山市医師会看護専門学校

第一看護学科3期生

原山 幸城

老年看護学実習Ⅰで今回私

は楠本病院へ実習に来させて

いただきました。様々な方と

集団体操や普段のコミュニ

ケーションなどで関わりを持

つ中で、同じことを何度も繰

り返し言われる、意味がよく

わからないことを言われる、

コミュニケーションがとれな

い、など困ることがありまし
た。

実習をしていく中で、様々

な疾患や年齢による身体的変

化によって、高齢の患者様は

特に自分のしてほしいことや、

やりたいことを学生にはつき

り伝えることができないと気

づきました。患者様には「ト

イレに行きたい」「散歩がした

い」「話を聞いてほしい」など

の思いがあり、それらに学生

が気づいていないだけだと分

かりました。患者様の思いを

反応や表情から感じ取ろうと

関わることで当初の戸惑いも

感じるものがなくなりました。

「その人」をみて（見て）関わっ

ていくことや患者様の思いを

引き出しながら接することが

患者様の立場になった看護を

行う上で大切だと学習しまし

た。患者様と向き合い、心の

思いを引き出すことができる

看護師をめざし学習していき

たいと思います。ありがとう

ございました。

退職挨拶

外科医 石田 道拓

この度、本年3月をもち

まして、異動することにな

りました。1年3か月とい

う短い期間でしたが、楠本

病院で勤務させていただきました

ましたこと、大変光栄に感

じております。

いたらぬ私でありました

が、大過なく診療できまし

たことは、先生方や看護

師、スタッフの皆様のご厚

情とご指導の賜物と深く感

謝しております。この場を

借りて、心より御礼申し上

げます。今後ともご自愛い

ただき、福山の地域医療に

貢献ください。



福山マラソン参加

事務部 山上 華奈

3月8日、福山市竹ヶ端運動公園陸上競技場で第34回福山マラソン大会が開催されました。ウォーキング4kmとマラソン3kmに分かれて参加しました。前日は、かなり雨が降っておりでしたが、当日の朝には昨日の雨が嘘のようによく晴れ最高のマラソン日和になりました。まず、現地に到着して受付をすませゼッケンを貰い、11時はいよいよウォーキングがスタート。ウォーキングはスタンプリー形式になっていて、親子での参加者が多くいました。子供たちがスタートと同時に走り出し、ウォーキングというよりもマラソン状態になっている子がたくさんいました。ウォーキングメンバー2人も笑顔でスタートし、人がいっぱいの中見送ることが出

来ました。その間、マラソンメンバー6人が合流し、から揚げを食べながらフルマラソンを走っている人たちの応援をしました。私たちより倍以上のコースを走っているにもかかわらず、余裕の表情でもさわやかでした。会社の旗を持ちながら走る人や、ガチャピンなどのコスプレをしている人たちがいて、応援している私たちも見ていて楽しめました。そして、約30分後にウォーキングの2人が4つのスタンプを集めてゴールイン！目標としていたタイムより大幅に早く帰ってき、ゴールで迎えてあげる事が出来ませんでした。

2人に負けず頑張るためにまずは屋台で腹ごしらえ。スタートまで時間もありません。時だったので多くの人で屋台はあふれかえっていました。色々な屋台があり、お祭り気分でした。焼きそば、ホルモン焼き、府中焼き、チーズボールなどを買って会場に戻り、皆で分け合って食べました。気分くともうスタート直前！5分前に慌ててスタート地点へ走り出しました。400人近くの参加者に圧倒され、また周りの人たちのスタートダッシュが早くて驚きましたが、自分のペースを大切に走りました。途中しんどくなってきました。途中で歩こうかと思いましたが、何度か歩こうかと思いましたが、沿道にきている方がたくさん「頑張れ！」「後もうちょっと！」という声援に最後まで歩かず走りきる事が出来ました。しかも目標タイムより早くゴールできて、達成感を味わえました。マラソンを完走し、最後まで諦めずにやり遂げることが出来た経験を、今後の仕事に生かしていきたいと思えます。



中焼き、チーズ、ボールなどを買って会場に戻り、皆

看護師・准看護師合格者



この度無事国家試験に合格する事ができました。5年間の学生生活で学んだ事、ご指導頂いたことをいかし、またさらに学習を深めることで誰からも信頼される看護師になれるよう頑張っていきたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願ひします。 高橋

どうも、なんやかんやお局的な存在の下宮です。この度無事国家試験に合格する事ができました。試験一週間前から業務が忙しい中、勉強に専念させていただくべく快くお休みを下さった病棟スタッフの皆様には心より感謝



しています。寝る間も惜しんで勉強をした甲斐がありました。やっぱり努力って素敵ですね。今後とも日々精進し、患者様に頼られる存在になれるようよう努力してまいります。 下宮

沢山の方に支えられこの度看護学校を卒業する事ができました。今後とも初心を忘れず笑顔で看護が提供できるよう日々努力してまいります。 藤井

習得した知識と技術を生かし、また先輩方からのご指導を受けながら精一杯頑張ります。 八木

今後とも患者様により良い看護が提供できるように日々精進し、技術と知識の習得に努めます。 野村

城南中学校体験学習

福山市立城南中学校の生徒さんから体験学習のお礼を頂きました。昨年8月に体験学習に来られた福山市立城南中学校の四名の生徒さん達からとても丁寧なお礼のお手紙と共に、手作りの素敵なポスターが届きました。今年を受験生です。残りの中学生生活を、目標をクリアされることを祈りしています。

病院内の様々な業務に触れ、患者さんと接する体験から貴重な学びをされたよ

『将来のことを考える際には、体験学習で学んだことを思い出します。』

とコメントされている方もおられ、将来、医療従事者を目指されるかな、と楽しみになるとともに、皆さん大変うれしく思いました。

また、作って頂いたポスターは、私たちにとても大きな励みになりました。ありがとうございました。

楠本病院

楠本病院は、内科、消化器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、泌尿器科、紅門外科、放射線科など多くの診療科目があります。

デイケアでは、食事、入浴、生活機能訓練、レクリエーション、リハビリなど行っています。

楠本病院の職員は、一人一人に優しく、ていねいに接してくれます。また、安全で設備が整っています。

笑顔あふれる楠本病院

福山市立城南中学校

地域医療連携室

地域医療連携室は病院長（室長）、副看護部長、外来師長、医療ソーシャルワーカー、事務の5名で構成しております。

どのような業務を行う部署なのか、馴染みのない名称だと思えますので、業務内容をご説明させていただきます。地域医療連携室は患者様の転入院調整・外来受診調整を他の医療機関様と行います。医療機関にて情報交換を行ないますので、現在受けられている治療を継続して行う事ができます、患者様・御家族様に安心してご来院いただけるよう調整させていただきます。

地域医療連携室は、医療機関や介護福祉施設等との連絡・調整・問合せの窓口となっております。

また、医療ソーシャル

ワーカーにより患者様・御家族様の抱えている問題、例えば入院加療中の治療費の心配、生活費の不安、退院後の生活が不安、家で介護するにあたって福祉サービスを利用したい・・・等々の問題解決の支援を社会福祉士の立場にてご相談をお受けいたします。料金は無料です、面談が混み合っている場合は事前に日程調整を行ないます。何かお困りの事がございましたら外来受付、かけて下さい。



蒼生 (2015年4月号)

発行 福山市曙町3丁目19番18号
医療法人蒼生会楠本病院
TEL (084) 954-3030
FAX (084) 954-9085

発行人 名誉院長 飯島崇史
発行日 2015年4月1日



理念

地域医療のニーズに応え住民の皆様の信頼を得る医療をめざします

基本方針

- ・急性期から慢性期さらには在宅支援まで含めた幅広い医療を提供いたします
- ・患者さんの安全を最優先に考える医療を行います
- ・新しい技術と知識の習得に努め、良質の医療を提供できるよう努力します
- ・快適な療養環境づくりをめざします